
松葉のダイオキシン調査

2024・11

23区南生活クラブ生活協同組合
松葉のダイオキシン調査実行委員会

目的

123区では2008年からプラスチックごみを可燃ごみとして焼却処理されることで焼却による環境汚染を調査する必要がある

1市民が主体となって環境監視活動に取り組むことを決意

にみ焼却による環境悪化を明らかにし、ごみ減量のライフスタイルに転換し地域の空気をきれいにすると同時に、焼却によるCO2の削減も目指す

プラスチックごみが不燃ごみとして扱われていた
2007年とその後の環境変化を監視するため活動をスタート



なぜクロマツで調査するのか？

- 日本全国に生息している常緑樹で年間を通した平均的な大気の状態を調べることができ、従来から環境指標として使われている
- 針葉に脂肪組織があり、光合成により気孔から空気を取り込み、ダイオキシン類などの有害化学物質が蓄積される
- 市民一人ひとりで採取したクロマツの針葉に蓄積した量を、環境指標として国際的に確立した方法で測る



報告概要

- 高騰した費用とカンパ募集
- 調査規模決定
- 松葉調査の流れ
- 調査の様子
- 調査結果概要

高騰した費用と費用とカンパ募集

- ・前回(2018)同様の規模の調査で見積りを取ると前回の2倍以上の高額費用に！ 世界の物価高騰とさらに空輸費もロシアとウクライナの戦争により急騰していた！
- ・コロナ禍を経て6年振りとなり、松葉調査を知らない組合員や環境問題への関心低下と言う壁も立ちはある
- ・前回の調査規模にこだわらず、カンパ状況で柔軟に調査規模を決めることに。
- ・4月にスタート集会と実行委員会立ち上げ、組合員の関心を高める講演を増やす。

- ・23区南生活クラブ生協機関紙に調査の意義と協力者募集、カンパの願いを載せる。
- ・23区南生活クラブ生協全組合員の1回目カンパ1口1000円で323口集まる。
- ・23区南生活クラブ生協同全組合員の2回目カンパ1口500円で729口集まる。
- ・草の根市民基金ぐらん助成金金に応募し、50万円の助成金を受け取る。

・上記と前回調査カンパ金の繰越と地道なカンパ募集で2025年3月末までに2,332,470円になった

調査規模決定

PCDD/PCDFは多種多様にあるダイオキシン類の中で毒性が強いと言われるもの

- ・カンパ金額によって規模が決定

(1)23区南生活クラブ生協担当の対象地域でダイオキシン類(PCDD/PCDF)の分析地域は6地域で6検体(クロマツの針葉200gで1検体)

- ・前回10地域10検体→6地域6検体に(渋谷区・中央区は初参加)

①世田谷区 ②目黒区・渋谷区 ③大田区 ④品川区・港区 ⑤中央区

- ・江東区 ⑥江戸川区

(2)金属類を分析した地域は(1)と同様の6地域で6検体

- ・前回10地域10検体→6地域6検体に(渋谷区・中央区は初参加)

(3)未規制物質(PAHとPBDE)の分析★最も注目する物質群はPBDE

- ・前回は全地域を3地域に分け3検体→全地域を平均して1検体
- ・PAH＝多環芳香族炭化水素類で虫除けや殺菌剤など化学薬品や石油製品に含まれ、高温 焼却によっても生成され発がん性等の毒性が高くベンゾ(a)ピレンは特に毒性が強い
- ・PBDE＝ポリ臭素化ジフェニルエーテル類は難燃剤として家電やカーテン等の繊維製品や紙類に含まれる。1～10臭素化があり、業界の自主基準で毒性のないとされる10臭素 化だけを使用とされているが・・・
- ・注目理由 前回松葉中のPBDEはダイオキシン類濃度の桁違いの高濃度だった！今回 もこれら未規制物質の大気中濃度を確認したい

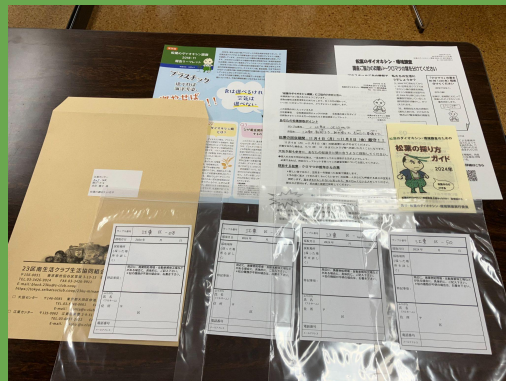
—

- ・前回までと調査する検体数は減ったが、調査項目は維持することができ、さらに調査報告リーフレットの作成が可能となり「ダイオキシン類濃度分布図」をこれまで通り作成できた。これは調査規模を決定する7月末までに、前回調査の繰越金と今回のカンパ金に加えて、ぐらんからの助成金50万円が入ったことが非常に大きく心から感謝いたします。

松葉調査の流れ

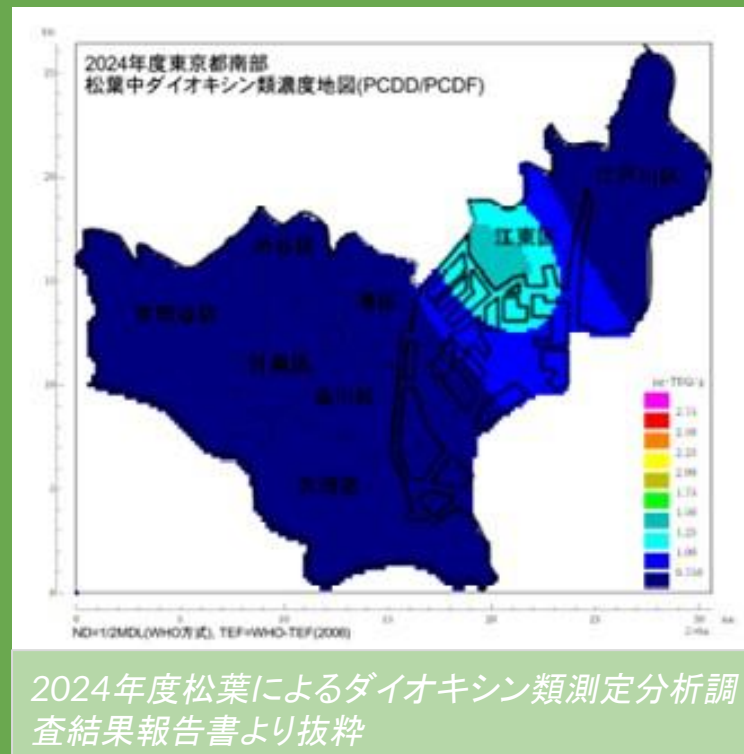
- ・前回調査の松葉採取ポイント確認と今回ポイント数を決定(ポイント数は共同研究の(株)環境総合研究所と打ち合わせ)確認作業
- ・取り方ガイド、資料、松葉採取キット配布 10/28-11/2
- ・11/11松葉発送作業/松葉のごみ、枯葉を除き計量する。採取場所のリスト作成、地図落とし
- ・11/13(株)環境総合研究所よりカナダの分析機関へ発送
- ・グーグルマップ最終版を(株)環境総合研究所へ提出
- ・2025年2月(株)環境総合研究所から報告書のまとめを受取る

調査の様子



調査結果概要

・コロナ禍収束後となる2024年度のダイオキシンは、平均で2018年度の半分程度まで大幅に濃度が低下したものの、PCDD/PCDFの同族体パターンをみると引き続き焼却由来のパターンであった。行政による大気測定結果と比較して松葉調査からの推計濃度が高いことから、行政の測定は実態を反映していないことが確認できた。また中央区・江東区では2018年度から横ばいであり依然として他の地域より顕著に高い一方、他の地域では大幅に低下した。



—
・ダイオキシン類は前回よりも良くなっているが、未規制の有害化学物質は、今回もダイオキシン類より桁違いに高濃度であった。私たちも呼吸からダイオキシン類以上にこれらの有害化学物質を体内に取り込んでいることが想像できる。今後、8月開催の国連のプラスチック条約でどのように評価されるのか注視していきたい。

コロナ禍以降、事業系家庭系の可燃ごみは、現在も約 **30万トン** 減っています。

ごみの焼却処理をしなければ大気環境は改善し、 **CO2** も減ります！ しかし、ごみは減っても清掃工場の規模を縮小する動きはみられません。

未来の子どもたちのためにきれいな空気、大地、水を守りたい ！

—
この度は草の根市民基金の助成金のおかげで調べた
かった調査項目と規模での第6回の調査を行うことが出
来ました。

調査結果を活かしプラスチック汚染やごみ減量など環境
問題にこれからも取り組んでいきます！

ご清聴ありがとうございました